

「アブラハムに見る模範」

(ローマ4:1-12)

一、信仰の父祖アブラハム

4章1節よりパウロは、アブラハムのことを引き合いに出して、主イエス・キリストを信じる信仰がどういうものなのかを語っています。なぜアブラハムを引き合いに出したのでしょうか。ローマ人への手紙の受取手となったローマに興された教会、すなわち主イエス・キリストを信じる人たちの中に、少数でしたが、ユダヤ人キリスト者がいたからでしょうか。それもあつたと思います。ですが、アブラハムを引き合いに出すことは、異邦人キリスト者も含めて、すべてのキリスト教会にとって必要なメッセージでした。

二、信じることによる神の義

1節をご覧ください。ここでは、肉による私たちの父祖アブラハムは何を見出した、と言えのでしょうか。パウロは語りました。アブラハムが見出したもの、得たものは何であったのでしょうか。もちろん、主イエス・キリストを信じることによって救われるという視点から語っています。それは2節以降に語られています。2節です。へもしアブラハムが行いによって義と

認められたのであれば、彼は誇ることができません。しかし、神の御前ではそれはありません。とあります。ちなみに創世記には、アブラハムが行いによって義と認められようとしたとは、一言も書かれていません。あくまでも、主イエス・キリストを信じることによって救われるという視点から、パウロは語っています。そして、創世記15章のことばを引用しています。3節です。

「聖書は何と言っていますか。「アブラハムは神を信じた。それで、それが彼の義と認められた」とあります。」と。アブラハムが、「あなたは、あなたの土地、あなたの親族、あなたの父の家を離れて、わたしが示す地へ行きなさい。そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとする」と語られ、出発したのが75歳でした。それから10年ほど経ち、85歳くらいになっていたと思われまます。なのに、未だに世継ぎは生まれていません。なかば諦めかけていました。が、神はアブラハムを天幕の外天を見上げなさい。星を数えられるなら数えなさい。あなたの子孫は、このようになる」と。続いて、書かれています。創世記15章6節です。アブラハムは主を信じた。それで、それが彼の義と認められた。と。そこでパウロは語ります。アブラハムが信じたことと、われわれ

れがキリストを信じて義とされることと同じであると。ユダヤ人であっても、異邦人であっても、キリストを信じることによって義とされる、すなわち神の前に正しい者と見なされるということです。さらに、ダビデが語った詩篇を引用して、キリストを信じることによって義とされる、すなわち神の前に正しい者と見なされることを語っています。6節より8節です。詩篇においては、自らの罪、すなわち主の御意思に添わない思いや行動を言い表して、赦しを経験した喜びを語っています。ですがパウロは、主イエス・キリストを信じる者は、ユダヤ人であろうが異邦人であろうが、神の前に義とされるという意味で説き明かしています。これは言い換えれば、ユダヤ人であっても主イエス・キリストを信じなければ、神の前に義とされないと語っているわけです。こうして12節になりますと、アブラハムは、割礼を受けている者たち(ユダヤ人)にとっても、割礼を受けていない者たち(異邦人)にとっても、父になったと語られています。聖書協会共同訳が分かりやすいので引用します。へまた、彼は割礼の父ともなりませんでした。割礼のある者にとつてだけでなく、私たちの父アブラハムが割礼以前に持っていた信仰の足跡に従う者にとつても、父になったのです。とあります。

三、宣教を考える

最後にお語りすることは、余談的な内容です。4章1節は、「それでは何と言えぬのか」ということばから始まっています。パウロはキリストの福音、すなわち善き知らせをローマに興された教会に伝えて、神の御意思に適った信仰が保たれるようにと、「ローマ人への手紙」を書きました。

パウロ先生の語り方は、ずっと一つのことを語っているように思われます。ある神学者がパウロの思考を指して「らせん状思考」と語りましたが、その通りかと思えます。すなわち、1章の前半ではキリストの福音について語っています。1章の途中から、罪について語り始め、3章23節、24節において、結論的なことばを語っています。へすべて人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず、神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いを通して、償なしに義と認められるからです。と。あつさりした手紙であるなら、これで終わってもかまわないと思うのですが、4章1節になって「それでは何と言えぬのか」として、話を続けて行くのです。そういうわけで、パウロ先生のメッセージは、ほぼエンドレスです。ですがキリストの福音を語るとは、そういうものかと思えます。と言いますのは、福音はだれかがつくった教えではなく、神によってもたらされたものだからです。